

淀川に住む貴重な自然の仲間発見！

もっと豊かな川にするには？

川づくりの歴史とこれからが満載！

講演会「知って愉しむ淀川」

～母なる大河“淀川”の素顔～

定員
400
名様



2011年 **6月25日(土)** 参加無料

場所：淀川区民センター大ホール
野中南2丁目1-5

開場：13時

- ・ パネル展示…13時～14時
- ・ 講演会 ……14時～16時半



講演
1

国の天然記念物 イタセンパラを育んだ淀川

講師：小川力也氏

大阪府立西野田工科高等学校教諭
淀川環境委員会委員
淀川イタセンパラ検討会座長
(上記2役 国土交通省淀川河川事務所)
希少野生動植物種保存推進員(環境省)
淀川水系イタセンパラ研究会会長

講演
2

淀川の汽水環境 100年の歴史

講師：河合典彦氏

大阪市立大桐中学校教諭(理科)
淀川環境委員会水域環境部会長
淀川管内河川レンジャー運営会議委員
(上記2役 国土交通省淀川河川事務所)
希少野生動植物種保存推進員(環境省)
淀川水系イタセンパラ研究会役員

*この講演会は OSS グループ 30 周年を記念し、淀川区が推進する
「“市民・企業・行政” 協働の取組み」の一環として開催します。

(お申し込み・お問合せは)

大阪ガスセキュリティサービス株式会社講演会運営事務局 **Tel.06-6734-4111**

主催：大阪ガスセキュリティサービスグループ



大阪ガスセキュリティサービス株式会社

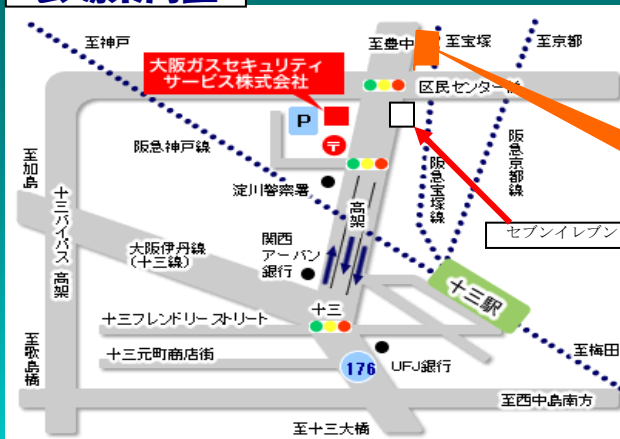


大阪ガスコミュニティライフ株式会社

共催：淀川フォーラム実行委員会

後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所(予定)・大阪府・淀川水系イタセンパラ研究会・大阪ガス(株)

会場案内図



淀川区民センター

淀川区民センター 大ホール

電話：06-6304-9120

住所：大阪市淀川区野中南2丁目1-5

阪急十三駅西口改札から徒歩約8分

講師紹介

講演1：小川力也 氏（大阪府立西野田工科高等学校）

①プロフィール

- ・昭和37(1962)年大阪市生まれ、49歳
- ・大阪府立西野田工科高校理科教諭、希少野生動植物種保存推進員(環境省)、淀川環境委員会委員(国交省)、淀川イタセンバラ検討会座長(国交省)、淀川水系イタセンバラ研究会会長
- ・1983年に大阪教育大学動物生態学研究室でイタセンバラに出会って以来その魅力にとりつかれ、夜間高校教師の傍ら研究を続ける。国土交通省や環境省などとともに、淀川水系の環境保全や野生絶滅の危機にあるイタセンバラの保護増殖に力を注ぐ



②講演概要・活動経歴

演題：「国の天然記念物イタセンバラを育んだ淀川」

2006年、「淀川のシンボルフィッシュ」と呼ばれたイタセンバラ(国の天然記念物、国内希少野生動植物種)が淀川から姿を消した。淡水魚類50種以上という全国屈指の豊かな魚類相を誇った淀川は、現在その象徴とともに多くの魚種を失うという危機的な状況にある。

かつての淀川は、巨椋池や河内湖などの広大な遊水池や氾濫原を有し、イタセンバラなどの魚類はその特有の河川環境のなかで育まれてきた。また淀川の流域は有史以来わが国の人口がもっとも集中した地域であり、われわれ人間も淀川がもたらす肥沃な大地に恩恵を受けてきた。

また、淀川流域での人間の生活は、たびたび洪水や渇水に脅かされ、時の為政者は治水や利水に力を注いだ。明治から昭和初期にかけて行われた水制工事は、期せずしてイタセンバラなど淀川の魚類にとって良質な生息環境「ワンドやタマリ」を誕生させた。一方、1970年から1990年代半ばに行われた河道改修は「ワンド・タマリ」を激減させ、残存した「ワンド・タマリ」は、外来魚類や外来植物が優占する異質なものに変貌してしまった。

現在、イタセンバラが象徴した淀川本来の生態系を復活させるプロジェクトが、国土交通省淀川河川事務所を中心に進められている。これを成功させるためには、人間と河川の関わり方について、今一度考える必要がある。今回の講演では、イタセンバラの珍しい生態を紹介しながら、それを通して人間と河川との関わり方について、講演会参加者とともに考えていく。

講演2：河合典彦 氏（大阪市立大桐中学校）

①プロフィール

- ・昭和31(1956)年、大阪市生まれ、55歳
- ・大阪市立大桐(だいどう)中学校理科教諭、淀川環境委員会水域環境部会長(国土交通省淀川河川事務所)、淀川管内河川レンジャー福島・毛馬管内運営会議代表(同)、河川水辺の国勢調査アドバイザー(国土交通省近畿地方整備局)、希少野生動植物種保存推進員(環境省)、一般社団法人水生生物保全協会監事、淀川水系イタセンバラ研究会役員、大阪市中学校教育研究会理科部専門委員、大阪府中学校理科教育研究会理事 など
- ・著書は『名まえしらべ 川や池の魚』保育社(共著)、『とりもどせ！琵琶湖・淀川の原因風景—水辺の生物多様性保全に向けて—』サンライズ出版、『絶体絶命の淡水魚イタセンバラ—希少種と川の再生に向けて—』日本魚類学会自然保護委員会編、東海大学出版会(分担執筆)など



②講演概要・活動経歴

演題：淀川の汽水環境100年の歴史

縄文時代の中期(5500年前頃)以降、河内湾—河内潟—河内湖へと変貌を遂げてきた大阪平野の基盤は、その大部分が低湿地であり、淀川などの氾濫によってたびたび洪水に悩まされてきました。1885(明治18)年には淀川で未曾有の大洪水が発生し、大阪市内の大半が水没するなど、淀川の沿川に甚大な被害が出ました。これを機運に1806(明治29)年から14年の歳月を費やして1910(明治43)に竣工したのが「淀川改良工事」です。現在の毛馬から下流、大阪湾までの約10kmの直線的な幅の広い淀川(新淀川)はこの工事によって誕生した新しい人工の河川なのです。著しい治水効果が大阪の発展をもたらしたことは言うまでもありませんが、この100年の歴史の中で形成された干潟やヨシ原に代表される淀川の汽水環境は、大都会の中の異質な景観と多くのさまざまな生きものたちの生息空間を提供しています。講演では、これらの淀川下流域の歴史や自然再生、そして、そこにすむさまざまな生きものたちの現状についてお話いたします。